あらためて防災と減災を考える

阪神淡路大震災から丸十四年。年々強まる台風災害や自然災害。そして震度6以上の大地震は28回。毎年大きな地震が続いています。山崎断層帯近くに住んでいる私たち。阪神淡路級の地震がいつ起きても不思議ではありません。あなたの災害への備えは万全ですか。今月号では、あらためて防災と減災（げんさい）を考えてみました。

阪神淡路以後の大地震「次」は明日かも・・・

阪神・淡路大震災以後、震度6以上を記録した地震は28回。そのうち新潟県中越では、震度7が観測されました。

図1以外でも、東京・伊豆諸島の地震で1人が死亡しており、阪神・淡路以後、地震による死者、行方不明者は計144人に上ります。

そして、この間の地震では、住宅再建、原発の安全性、孤立集落の問題など、さまざまな課題が浮上しました。地震は今、列島のどこでも起こり得るものであり、「次」は明日かもしれません。

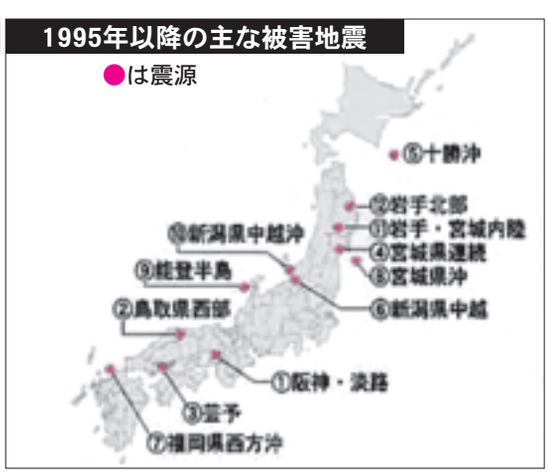
山崎断層帯地震は30年先に5％の確立

このような中、山崎町を横断している山崎断層の不気味さが指摘されています。この山崎断層は、図2のように7つの断層で構成され、「山崎断層帯」といいます。

この断層帯で起きた大地震は、868年のM（マグニチュード）7級の播磨国地震です。それ以後千年以上が経ち、危険性が高まりつつあるとされています。

政府の地震調査委員会は2003年、大地震の発生確率などを公表。同断層帯は主部（北西部、南東部）など三つに区分し、南東部で今後30年以内にM7・3クラスの地震が発生する確率が最大5％であるとされています。

図1



神戸新聞（2009年1月19日）「ひょうご防災新聞・最近の地震」より

図2

神戸新聞（2008年1月12日）「山崎断層特集」より